

パームトップパソコン ME-386に いろいろつなぐ

注1) TP220は電池の持ちが悪い

使い捨てのアルカリ乾電池を使用していたのではもったいない環境にもやさしくないので、筆者は日立のニッケル水素乾電池、セルエースNH-11AA(1.2V 1100mAh)を使用していた。専用の充電器は、㈱スカイニーのニッケル水素充電電池用急速充電器SC-306GCを使用した。秋葉原の千石電商で購入することができる。

注2) 秋葉原にあるショップ、AZ' TEC

比較的最近オープンしたDOS/Vショップ。パームトップPCを扱っている数少ないショップである。日本語化についての店員の知識も深く、NIFTY-Serveでのサポートも行っている。筆者もME-386購入の際は、随分と世話になった。以下に住所を示す。

〒101 東京都千代田区外神田3-11-2 ロックビル2F

TEL03-5296-2931
FAX03-5296-2934

注3) Sparcom Corporation

以下に住所を示す。
Sparcom Corporation
897N. W. Grant
Corvallis, OR97330 U.S.A.

筆者は携帯用パソコンとして、HP95LX、HP100LXを使用してきた。

HPは確かに小型、軽量で、電池の持ちもよいのだが、キーボードの形状がボタンで、タッチタイプができないところが、唯一不満であった。その後、IBMのThinkPad 220の大安売りがあったので、思わず購入してしまった。ところが、TP220は電池の持ちが悪い(注1)ところもあってきて、やはり重い(写真1)。それでもはじめはなんとか毎日持ち歩いていたが、寄る年波には勝てず、つい「腰」にきてしまった。

そんなとき、TIDALWAVE社製パームトップパソコン、ME-386(写真2)を見つけ、さっそく秋葉原にあるショップ、AZ' TEC(注2)から購入した次第である。

ME-386はHP100LXに比較すると、確かに重いし大きい。また、TP220と比較すると、LCD画面がCGAなのでいろいろと制約があるが、結構気に入って毎日使用している。

キーボードのタッチがいまひとつという評価もあるが、この大きさとタッチタイプが可能であるメリットは大きい。電池込みで700gという重量も、毎日持ち歩くには許容限界ギリギリの重量である。

筆者は、このME-386に10MBのフラッシュメモ리카ードを付け、WXII+とVzエディタを入れて、原稿作成に使用している。通信ソフトはKTXが軽くて便利だ。モデムはXJACKである。表計算ソフトにはLotus1-2-3 Notebook Release2.0を使用している。

1-2-3Notebookは、全ファイル合わせても700KB程

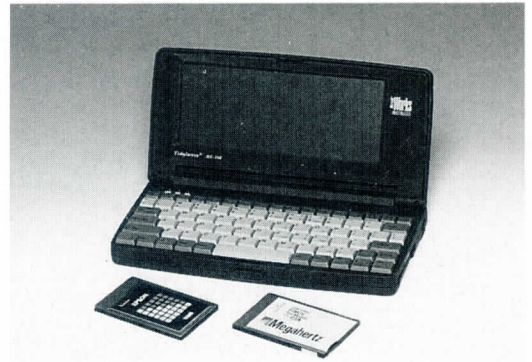


写真2 ME-386と10MBのメモ리카ードとXJACK

度しがなく、少ないフラッシュメモ리카ードの容量を圧迫しなくて済むし、CGAで起動できる。

今回は、このME-386を使用して、いろいろと実験を行ってみたので、ご報告する。

Drive95をつなぐ

Drive95(写真3)は、Sparcom Corporation(注3)が製作したHP95LX用のポータブル・ディスクドライブである。筆者がHP95LXを使用していたときに購入したのであるが、今回これをME-386に接続してみることにした。

Drive95は、電源としてACアダプタのほかに、内蔵の充電式バッテリーも使用できる。本体との接続はシリアルインターフェイスで行い、コネクタの形状は、D-Sub

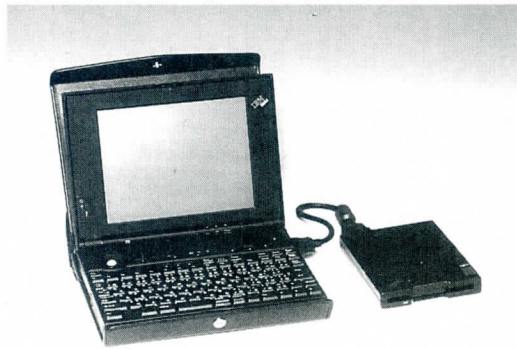


写真1 IBM ThinkPad220

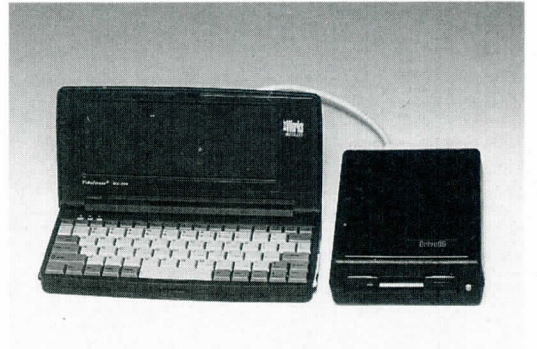


写真3 Sparcom CorporationのDrive95をME-386に接続した

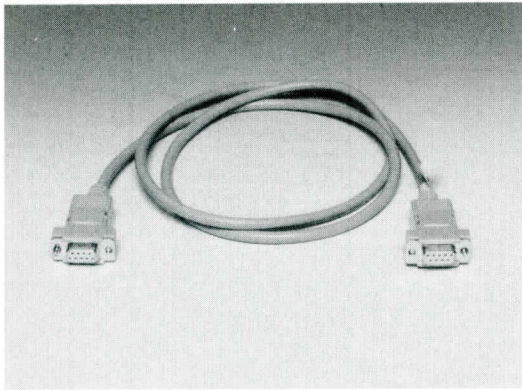


写真4 Drive95とME-386とを接続するケーブル

9 Pinのオスだ。

まず、Drive95とME-386とをケーブルで接続する。Drive95とME-386本体は、D-Sub 9 Pinタイプのオスのコネクタを使用しているため、接続用ケーブルは両端がメスのD-Sub 9 Pinタイプのものを使用する(写真4)。今回は、以前P SHOP(注4)で購入した、クロスケーブルを使用した。

次に、ドライバソフトをインストールする。Drive95には、接続用のソフトウェアドライバが付属している。以下に、ドライバの書式を示す。

device=DRIVE95.SYS[Machine Type] [Data Baud Rate]

オプションの項目では、以下の設定が可能だ。

・Machine Type

PCAT：通常のATマシン

POQUET：低速のポケットノートブックPC

HP95：HP95LX(デフォルト設定)

・Data Baud Rate

H9600：9600bps

H19200：19200bps

H38400：38400bps

H57600：57600bps

ME-386に接続する際は、Machine TypeをPCATに指定する。またボーレートは、9600bpsに設定する。ドライバソフトのインストールは、適切なディレクトリにDRIVE95.SYSをコピーし、CONFIG.SYS中に、以下のように記述する。

device=DRIVE95.SYS PCAT H9600

DRIVE95.SYSをCONFIG.SYSで組み込むと、論理ドライブがひとつ割り当てられる。したがって、CONFIG.SYS中では、DRIVE95.SYSを一番最後の行に組み込んでおくと、ドライブ番号がずれることなく、トラブルが起きにくい。筆者の場合、ME-386のPCMCIAスロットのA CARDがGドライブ、B CARDがHドライブとなっているので、DRIVE95にはIドライブが



写真5 EduCALCのカタログ

割り当てられている。

9600bpsでのシリアル転送なので、かなり遅く感じられるが、それでもFDDが付くと、メインマシンとの小さいファイルのやりとりが、格段に便利になる。

なお、現在では、Sparcom社からHP100LX用のディスクドライブであるDrive100も発売されているが、こちらのほうの動作は、まだ試してはいないため不明である。

Drive95とDrive100は、アメリカのパームトップ、PDA専門店であるEduCALC(注5)(写真5)が扱っている。価格は、以下のとおりである。

Drive95 Stock #2602 \$285

Drive100 Stock #3024 \$299

(1994Catalog #64掲載の価格)

ME-386で、シリアルポートを使用してデータ転送を行うと、バッテリーの減りが、かなり早くなる。外出先で使用する場合には仕方がないが、家で使う場合には、ACアダプタを使用すると、バッテリーを節約することができる。ME-386用のACアダプタは、DC 9ボルト仕様のものである。秋葉原の部品屋で購入してもよいが、筆者がME-386を購入したAZTECでも、専用のアダ



写真6 ME-386用のACアダプタ

波多利調の
Funky Goods

注4)P SHOP

JR恵比寿駅東口にあるDOS/Vショップ。このショップでは、ケーブル類が非常に安い。また、希望の部品が選択できる、組み立て型のノートパソコンなど、ユニークな製品を扱っている。恵比寿ラーメンを食べに行くついでに立ち寄るとよい。

注5)EduCALC

以下に連絡先を示す。

EduCALC
27953 Cabot Rd.
Laguna Niguel, CA92677
TEL714-582-2637
FAX714-582-1445

プタを扱っている(写真6)。価格は2500円である。

PORT・ABLE Sound PLUSをつなぐ

PORT・ABLE Sound PLUSは、パラレルポートに接続する音源ボックスである(写真7)。パソコン本体のパラレルポートに接続することにより、サウンド・ブラスコンパチブルの音源として使用することが可能となる。アメリカのDigispeech Inc.社製の製品で、日本では㈱マイタックジャパンが、日本語マニュアル付きで販売している。

秋葉原のT・ZONE ミナミで、1万9800円で購入した。

PORT・ABLE Sound PLUSは、ベースユニットとスピーカーユニットのふたつで構成されている。ベースユニットは、パソコン本体のパラレルポートに直接接続する。スピーカーユニットは、ベースユニットと専用のケーブルで接続する。電源は、ACアダプタのほか、単三乾電池6個でも動作する。

今回は、このPORT・ABLE Sound PLUSをME-386に接続してみることにする。

PORT・ABLE Sound PLUSを使用するためには、ソフトウェアのインストールを行う必要がある。ドライバソフト類はFDで供給されており、専用のインストーラを使用するようになっているので、まず、適当なノートパソコンにインストールを行って、その後、必要なファイルのみをME-386にコピーするといった方法を採用した。

筆者はThinkPad220を持っているので、まずこれに必要なソフトをインストールする。ソフトはFDに圧縮されて格納されているため、専用のインストーラを使用してThinkPad220のHD上に解凍する。次に、ME-386



写真7 PORT・ABLE Sound PLUSの商品構成

で使用しているフラッシュメモリカードをThinkPad 220に挿して、必要なファイルをフラッシュメモリカードにコピーする。

必要最小限のファイルは、以下のとおりである。

BMMASTER.EXE
BMMASTER.LDR
BMMASTER.MON
BMMASTER.OVL
BMMASTER.LVO
DGSETUP.EXE
DGSPEECH.INI

次に、ソフトをコピーしたフラッシュメモリカードをME-386に挿入し、ME-386上でDGSETUP.EXEを実行して、マシンの環境をディテクトする。筆者のME-386の場合、以下のようになった(以下は、ME-386専用のACアダプタを接続しているときの値である。囲み参照)。

Ports Found : LPT 1
DOS Version : 5.00
CPU Type : i386 19.20MHz
I/O per sec : 393216.00
PC Type : PC/AT 04/19/90
Bus Type : ISA/EISA
Port Used : LPT 1
Base : 03BCh
Interrupt Level : 7

◎パフォーマンステストの結果2
PFM486Ver1.77でも計測してみたが、こちらは、内蔵バッテリーでもACアダプタでも同一の結果となった。

Performance of 486-PC Ver1.77 ©1992-1994 Dyan Keihin
i386Sx Frequency = 19.42MHz Machine : AT v1.77
Ecache Read Time = 211ns/dword(0.1wait, 19mb/s)
Ecache Write Time = 320ns/dword(1.1wait, 13mb/s)
Memory Read Time = 211ns/dword(0.1wait, 19mb/s)
Memory Write Time = 320ns/dword(1.1wait, 13mb/s)

注6) コラーニマウス

デザイナーとして有名なルイジ・コラーニがデザインした、エルゴデザインのマウス。日本では、ビジネス・イノベーションズ(株)が発売している。秋葉原TWO-TOPで、4800円で購入した。色は、白と黒がある。手で触った感じは自然だが、結構大きい。

コラーニは、マウス以外にパソコン本体のデザインも手がけている。フランスのパソコン雑誌、PC EXPERT(Nov1994)を見ていたら、Vobis MICROCOMPUTER社製の486DX4/100MHzフルタワーマシンが掲載されていたが、このマシンのデザインが、コラーニであった。キーボードと本体といい、なかなかいい曲線を出しており、思わず欲しくなってしまったのだが、お値段は14500フランとのことであった。興味のある方はどうぞ。

VOBIS MICROCOMPUTER
MONTPARNASSE店
20, db du Montparnasse
75015 PARIS
TEL(1)45671013
FAX(1)45671274
商品名 : HighScreen
Colani DX4/100

◎パフォーマンステストの結果1

これも有名な話だが、ME-386では、ACアダプタを使用したときと、内蔵のバッテリーを使用したときとで、マシンパフォーマンスが異なる。Landmark Testでは、CPU Clock以外に違いは見受けられなかった。

	内蔵バッテリー使用時	ACアダプタ使用時
*CPUBENCH Ver0.980		
Ratio to the first PC9801	2.24	9.30
Execute time(Sec)	30.82	7.43
*DBENCH		
Execution time(Sec)	—	96
Dhrystones/Second	—	3125.00
PC-9801DA 2 (386/20M)ratio	—	0.70
*Landmark System Speed Test		
Version2.00		
CPU Clock(MHz)	6.701	19.266
CPU (MHz)	18.69	18.70
FPU (MHz)	N/A	N/A
Video (chr/ms)	395.00	395.00

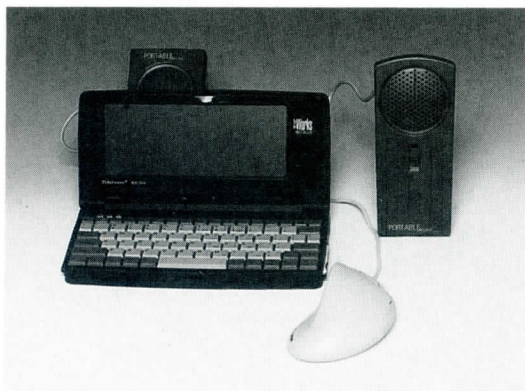


写真8 ME-386にPORT・ABLE Sound PLUSとカラーニマウスを接続した

DSP Version : 1
ASIC Version : 0

これらの情報は、DGSPEECH.INIというファイルに保存される。これでセットアップは終了する。あとは、コマンドラインから、

BMAS^TER

と入力するだけで、常駐プログラムが起動し、パラレルポートに接続したユニットから音が出るようになる。ドライバの常駐を解除するには、

BMAS^TER/U

と入力すればよい。ME-386にマウスとPORT・ABLE Sound PLUSを接続してゲームを行うと、画面こそCGAであるが、ほとんどデスクトップと変わらない環境でプレイすることができる。PC内蔵のスピーカーと異なり、ちゃんとした音源から音が出るのは、かなり効果がある。試しに、カラーニマウス(注6)を接続し、ゲームShanghai II (Dragon's Eye)を起動させてみた(写真8)。起動時のオプション指定は、以下のとおり。

DE /CGA /ADLB_MUS /SNBL_SFX

Shanghai IIのパッケージには、どこにもCGA対応になっているとは書かれていないが、起動時のモード選択オプションに「/CGA」と書くことによって、CGAでもプレイすることができる。ちなみに、起動時のオプシ

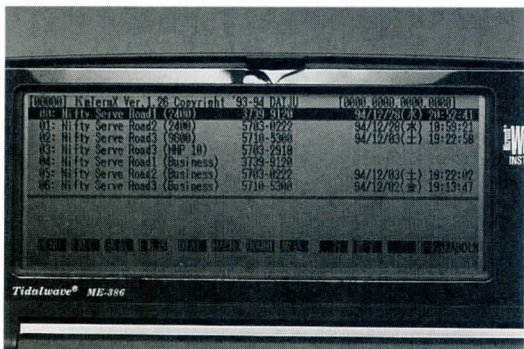


写真9 KmTermXの起動画面

ョン一覧は、

DE /H

と入力することで確認することができる。

アナログムーバをつなぐ

せっかく機動性に優れたパームトップを持っているのだから、アナログムーバを使用して、外出先からパソコン通信を行ってみることにする。モデムは、Megahertz社のXJACK XJ2144-80を使用する。

ここで問題となるのは、通信ソフトである。筆者のME-386は、QEMMを使用してメインメモリを空けるようなことをしていないため、日本語環境下ではコンベンショナルメモリが360KB近くまで減ってしまう。そのため、重い通信ソフトだと、メモリ不足で起動すらできない。

そこで今回は、軽い通信ソフトとして有名なKmTermX(DOS/V版)Ver1.26を使用した(写真9)。

KmTermX(KTX)は、NIFTY-ServeのFGALTM(通信環境フォーラム)のLIB 9 (KmTermX本体・関連ソ

波多利朗の
Funky Goods

注7) IBMのPS/55note用セルラーケーブルキット
商品名を以下に示す。
Name: Cellular Cable Kit
ID #: 07G3319



写真10 IBMのPS/55note用セルラーケーブルキットパッケージ



写真11 アナログムーバとME-386とを接続したところ

注8)ニッシンバル

JR秋葉原駅昭和通り口を出たところにあるパソコンショップ。PC-9801シリーズが中心であるが、EPSON製品も取り扱っている。98用のIDE HDDなどが安く出ることがあり、筆者はよくここでHDDを購入し、物理フォーマットをかけてAT用として使用している。

注9)キャラベルデータシステム社がEPSON社製のノートパソコン用増設HDDとして発売していたユニットであるが……

製品名は、キャラベルデータシステム製のAV-040 ARである。HDDケースを分解すると、中からJVC社製40MB2.5インチHDD、JDE2042M10-1が出てくる。ちなみに、HDDのパラメータは、以下のとおり。

CYLS	973
HEADS	2
PRECOMP	65535
LANDZONE	972
SECTORS	43
CAPA	40

注10)ジャンクHDD再生マシン

ジャンクHDD再生マシンといっても、なんのことはない、余剰部品とジャンクでこしらえた、ただのAT互換機である。

マザーボードは、GIGA-BYTE社のGA-486VS、CPUはi486DX-33MHz、マルチI/Oカードはロビン電子で3000円で購入したVL-Bus対応のジャンクの無印品、HDDは計測器ランドで3000円で購入したジャンクのWESTERN DIGITAL 170MB IDE HDD Cavier 1170、そしてビデオカードはダイアモンド社のViper VLBといった構成である。

なぜViperなどを使っているのかというと、DOS上のパフォーマンスがあまりにもブアなため、嫌になってお蔵入りしていたものを復活させたからである。

HDD復活用フォーマットソフトには、Drive Proを使用している。



写真12 JR西荻窪駅1番線ホームのベンチから、NIFTY-Serveにアクセスしているところ

フト)No.7に登録されている。このKmTermXを使用すると、コンベンショナルメモリが360KBと非常に少ない筆者のマシンでも、パソコン通信を行うことができる。

次に、XJACKのモジュラーコネクタとアナログムーバを接続する。接続には、IBMのPS/55note用セルラーケーブルキット(注7)(写真10)を使用する。セルラーケーブルキットは、XJACKのモジュラコネクタとムーバのイヤホンマイクセット端子(直径2.5mm)とを接続するためのケーブルである。T・ZONEミナミにて、5850円で購入した。

接続が終われば、あとは比較的簡単だ。KTXを起動して、MNP10関連コマンドでモデムを初期化した後、NIFTY-ServeなどのMNP10をサポートしているホスト局へ、ムーバ側でダイヤルして接続すればよい(写真11)。必要と思われるMNP10関連コマンドは、以下

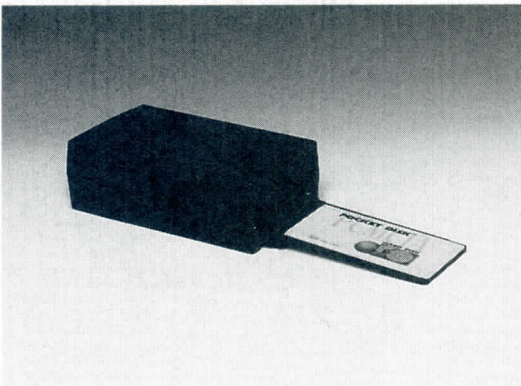


写真13 Pocket Diskの外観

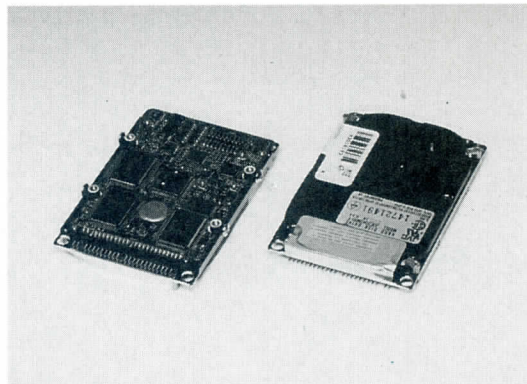


写真14 JVC社製40MB2.5インチHDD、JDE2042M10-1本体

のとおりである。

)M: MNP10設定

*H: リングネゴシエーションスピード設定

-K: MNP10拡張サービス設定

@M: キャリア送出レベル設定

実際に外出先でNIFTY-Serveへアクセスしてみたが、かなり安定して接続することができた(写真12)。スピードは1200bps程度なので低速ではあるが、メールを読んだり出したりする分には、とくに支障はない。問題は電池の持続時間くらいである。さすがにXJACKを使用して通信を行うと、本体バッテリーの減りが早い。

Pocket Diskをつなぐ

Pocket Disk(写真13)といえば、本誌1月号の「ゼロ・ハリの電腦遊戯倶楽部」でも取り上げられたが、PCMCIAカードスロットに、外付けの2.5インチHDDを接続する装置である。秋葉原ではT・ZONEミナミが取り扱っている。BONDWEL社というところの製品で、外観はなかなかユニークだ。

今回購入した製品には、HDDが内蔵されていないので、これに余っている2.5インチHDDを内蔵させ、ME-386に接続してみることにした。

使用したHDDは、JVC社製40MB2.5インチHDD、JDE2042M10-1(写真14)である。このHDDは、秋葉原にあるPC-9801系ショップ、「ニッシンバル(注8)」にて、ジャンク扱いで購入したものだ。もともとはキャラベルデータシステム社がEPSON社製のノートパソコン用増設HDDとして発売していたユニットであるが(注9)、容量が40MBと非常に小さく、市場価値がなくなってきたため、在庫処分として破格値で新品を販売していたものである。購入時の価格は、4000円であった。

購入してきたHDDは、まず筆者のジャンクHDD再生マシン(注10)(写真15)でフォーマットをかける。その後、例のPocket Diskに格納し、ThinkPad220に接

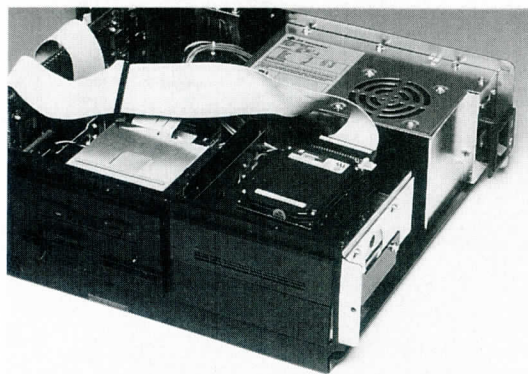


写真15 ジャンクHDD再生マシンの内部構成

続いて、正常に動作することを確認する。次に、いよいよME-386に接続する(写真16)。

ME-386の内蔵ROMに格納されているCONFIG.SYSファイル(TLDWAVE.SYS)中には、ATA TYPE III HDD用のドライブが下記のように登録されており、初期状態ではコメントアウトされている。

```
rem ATA TYPE III HDD or I/O Mode( / 0: slot A, / 1: slot B)
```

```
rem device=c: ¥tools¥pcmata.sys / 0 /addr=ac
最初は、なにも考えずにこのremを取り外してみたが、
DEVIDED ERROR
```

というエラーを発生して、ハングアップしてしまう。どうも、内蔵のドライブが対応していないようである。ME-386に内蔵されているPCMATA.SYSファイルの容量は、以下のとおりである。

```
PCMATA.SYS 9290 06-30-93 5:23
```

次に、PCMATAドライブをいろいろと取り替えてみることにした。結局、IBM PC-DOS J6.1/Vに内蔵されているPHOENIX社製PCMCIAドライブ、PCMATA.SYSで、なんとかHDDを認識させることができた。書式は、以下のとおりである。

```
rem ATA TYPE III HDD or I/O Mode( / 0: slot A, / 1: slot B)
```



写真16 Pocket DiskをME-386に接続したところ

```
rem device=c: ¥tools¥pcmata.sys / 0 /addr=ac
(ME-386内蔵のPCMATA.SYS)
```

```
device=c: ¥pcmata¥pcmata.sys(今回変更したPC
MATA.SYS)
```

使用したIBM PC-DOS J6.1/Vに内蔵されているドライブの容量は、以下のとおりである。

```
PCMATA.SYS 13865 12-03-93 6:10
```

PCMATA.SYSのオプションは、なにか指定できるのかわからなかったため、なにも付けていない。このあたりは、結構いいかげんである。また、PC-DOS J6.3/Vに内蔵されているPCMATA.SYSで動作するかどうかは、テストしていないので不明である。

わかってしまえば簡単なことなのだが、ここに到達するまでには紆余曲折があった。おそらく上記以外にも、もっとエレガントな方法があると思われる。

なお、今回の実験で使用したドライブでは、大きな容量のHDDに対応していないようで、Maxtor社製80MB IDE HDD、2585ATで試したところ、ファイルアロケーションエラーが発生し、FATがぶっとんでしまった。この原因が、PCMATA.SYSにあるのか、それとも他のPCMCIAドライブにあるのかは不明であるが、ドライブが管理できるHDD内のアロケーションユニット数の上限が、それほど多くはないようだ。

いまのところ、40MBのHDDであれば、とりあえず使用できている。このときのCHKDSKコマンドの実行例を、以下に示す。

[JVC社製HDD、JDE2042M10-1(40MB)を使用したときのディスクの状態]

```
42676224bytes total disk space
2048bytes in each allocation unit
```

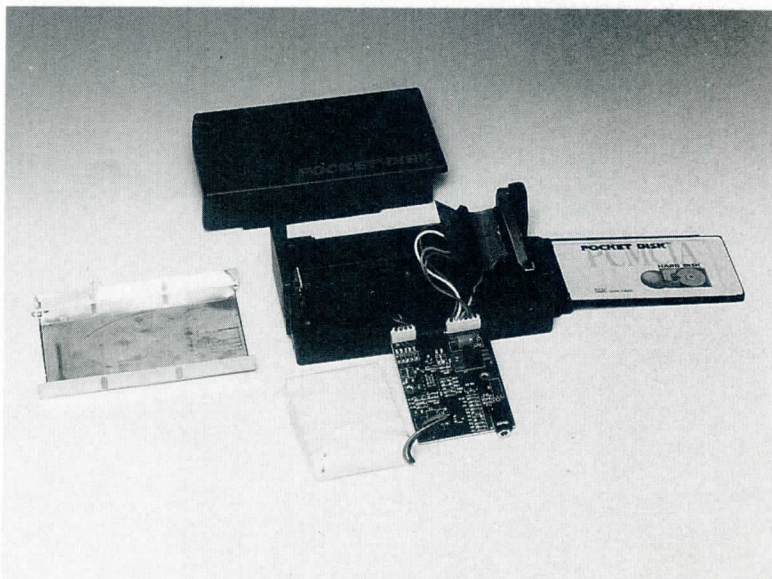


写真17 Pocket Diskの内部構造

20838total allocation units on disk

ただし、40MBの容量だと、若干不安定であるような兆候があった。この辺はもう少し評価してみなければわからないのだが、実はこの実験を行っている最中に、Pocket Disk本体が破壊されてしまい、評価が続行できなくなってしまった。破壊の原因は、ドライバのせいではなく、あまりにも頻繁にHDDの付け替えを行ったため、本体内部のコネクタ部分が物理的に破壊され、接

触不良になってしまったのだ。半田ゴテ片手に復活を試みたが、フレキシブル基板のパターンが剥離してしまい、昇天した。本来この手の製品では、HDDを何回も入れ替えて使用するようにはできていないため、しょうがないといえましょうがないのだが……。

代替え機を購入するため、秋葉原のT・ZONEミナミを訪れたが、売り切れ状態で次回の入荷日は未定とのことであった。Pocket Disk破壊記念に、内部の分解写真を掲載しておく(写真17)。

というわけで、今回は評価途中での報告となった。興味のある方はいろいろと試してもらいたいが、あくまでも各自の責任において実験していただきたい。筆者はドジなせいか、数回HDDのFATをぶっ潰してしまった。HDDが壊れてしまったと聞いて泣きつかれても、当方としては対処のしょうがないので、予めご了承いただきたい。

こんなに苦労してまでPocket Diskを使おうとしていることには、理由がある。筆者のような貧乏人には、とてもじゃないが40MBや20MBのフラッシュメモリカードなど購入することができない。現在、20MBのフラッシュメモリカードは、実売価格で9万円といったところだが、Pocket Diskにジャンクの20MBのHDDを突っ込めば、約2万2000円程度で済む。このメリットは大きい。Pocket Diskは、内蔵のバッテリーで動作させることも可能なので、若干根性が必要だが持って歩けないこともない。

*

参考までに、表1に、筆者のME-386のCONFIG.SYSファイルの内容を、また表2には、AUTOEXEC.BATファイルの内容を掲載しておく。実用的な目的で購入したME-386であるが、おもちゃとしても非常に面白い。今後、このような謎の(?)パームトップ機が市場にどンドン出てくることを期待したい。

```

buffers=20
files=30
rem --- The Drive Sequence is Non-Changable from A: - F:
rem Drive A: and B: are PCMCIA slots built in ROMDOS
rem Drive C: is ROM/RAM Disk built in ROMDOS

dos=high

rem Drive D: MS-WORKS ROM Disk
device=c:Yromdrive.sys

device=c:YtoolsYhimem.sys

rem Drive E: Size Adjustable Data-Keeping RAM DISK
device=c:YtoolsYtxmsdisk.sys 384k

rem Drive F: Updatable Flash Disk
device=c:Yromflash.sys

rem Drive G: Bitfax & Bitcom accompanied by Internal Modem if exists
device=f:Ybitdrive.sys

rem PCMCIA Drivers: Follow the sequence
device=f:Ypcms.exe /FLASH /ADDR=D0 /NOPM
device=f:Ypcmscd.exe /COM=2 /LEVEL
device=f:Ypseudo.sys

rem Flash File System support
rem device=c:YtoolsYdblflash.sys
rem device=c:YtoolsYms-flash.sys

rem ATA TYPE III HDD or I/O Mode ( /0:slot A, /1:slot B )
rem device=c:YtoolsYpcmata.sys /0 /addr=ac
rem device=c:YpcmataYpcmata.sys(Pocket Diskを使用する場合にはremを取る)

rem ATA Card Memory Mode
device=c:YtoolsYsdprdrv.sys /d:2

rem Microsoft Interlnk Driver support
rem device=d:YdosYinterlnk.exe

rem Microsoft APM Driver:
device=c:YtoolsYpower.exe

device=g:YfontmanYfontman.exe -b10 -fg:YfontmanYfontman.ini
device=g:YjpndrvYyadc.exe -v70 -s8,14 -d14,14 -l14 -jp -bd -6+ -av
device=g:YjpndrvYkkcfunc.sys
device=g:Ywx2Ywx.sys /A2 /SB5 /SD5
device=g:Ywx2Ywx2a8.sys /A2 /dg:Ywx2Ywx2.dic
device=g:YjpndrvYansi.sys

device=g:YbinYdrive95.sys PCAT H9600(Drive95を使用する時のみ必要)

```

表1 ME-386のCONFIGSYSファイル

```

@echo off
prompt $p$g
path=c:Yrp;c:Ytools;c:Y;d:Ydos;e:Y;f:Y;g:Yvz;g:
Ybin;g:Yjpndrv;
if EXIST c:Yconfig.sys goto Check_Auto
copy c:Ytdlwave.sys c:Yconfig.sys > nul
:Check_Auto
$$auto$$
if errorlevel 5 goto ExecA
:f:Ymainmenu
goto end
:ExecA
a:
cd Y
autoexec.bat
:end
@echo on

```

表2 ME-386のAUTOEXEC.BATファイル